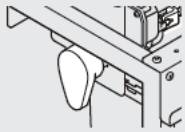


STEP16.便器洗浄ユニット

大便器部・汚物流し部共通です。

1 洗浄レバーの取り付け



▶P.84

2 受信ユニットの取り付け



※汚物流し部のみ

▶P.85

3 ワイヤユニットの取り付け



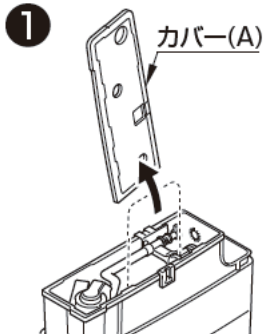
※停電対応の場合

▶P.86

1 洗浄レバーの取り付け

ポイント

【停電対応ありの場合】
洗浄レバーはここで取り付けしません。
P.86で取り付けします。



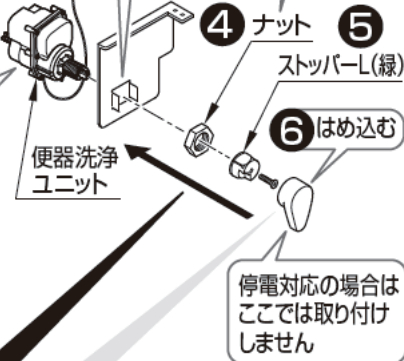
※パッキンははずさないでください。



大便器部の場合のみ
ウォシュレットへ接続
▶ウォシュレット
施工説明書参照

2つ穴の場合は
壁側の穴を使用

工具でしっかり
固定する



停電対応の場合は
ここでは取り付け
しません



7 シールの張り付け (停電対応の場合はありません)

【左側】

シールを張る

【右側】

シールを張る

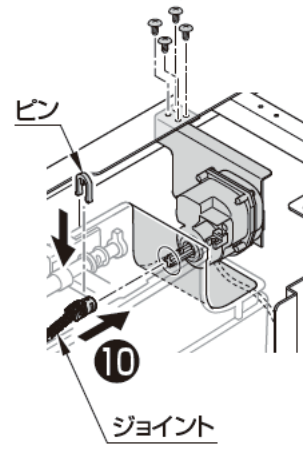
8 ジョイントからピンを取り外す

9 便器洗浄ユニット支持材を大便器部・汚物流し部の フレームにそれぞれ取り付ける

※汚物流し部は②で外したねじを使用します。

【大便器部】

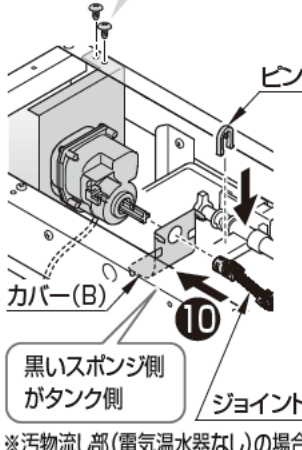
9 バインドタッピンねじ
φ4×8(4本)



【汚物流し部】

電気温水器ありの場合

9 バインドタッピンねじ
φ4×8(2本)



カバー(B)

黒いスポンジ側
がタンク側

※汚物流し部(電気温水器なし)の場合
はカバー(B)は取り付けません。

10 ジョイントを便器洗浄ユニットに取り付ける

11 下記内容を確認

□ジョイントが抜けないことを確認

ピン固定位置

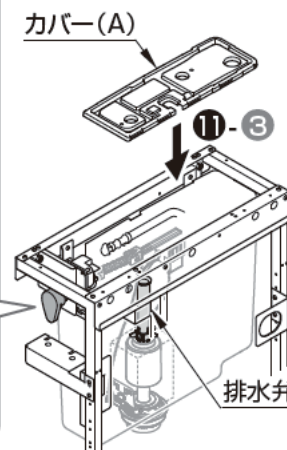
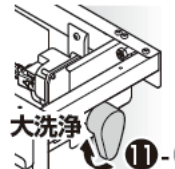


□レバーを「大」側に回して、排水弁のみが引き上がることを
確認してから、カバー(A)を付ける

左に洗浄レバーがある場合



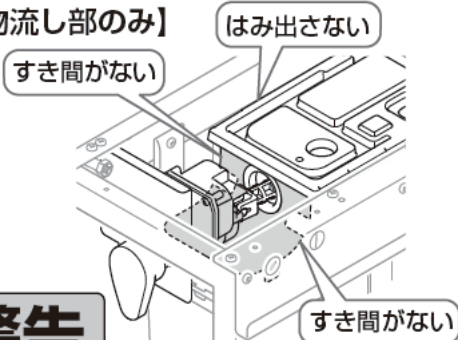
右に洗浄レバーがある場合



排水弁

電気温水器ありの場合

12 【汚物流し部のみ】

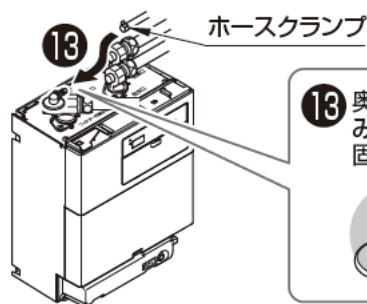


警告

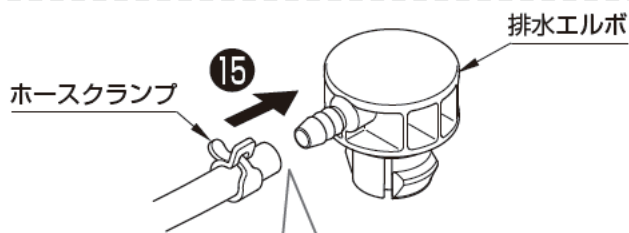
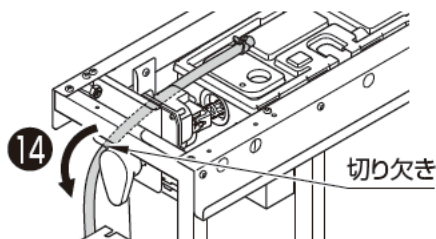
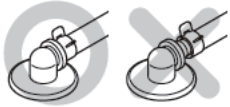


必ず守る

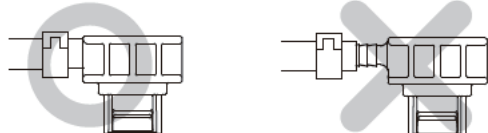
セットタンクのカバー(A)、カバー(B)はタンクとのすき間ができないように確実に取り付ける
水漏れにより、感電、または、建物や設備などをめらす財産損害発生の原因となります。



13 奥まで確実に差し込みホースクランプで固定する



奥まで確実に差し込む



警告



必ず守る

軟質ホースは継手の根元まで手で差し込み、ホースクランプを確実に取り付ける
水漏れして建物や設備などをめらす財産損害発生の原因となります。

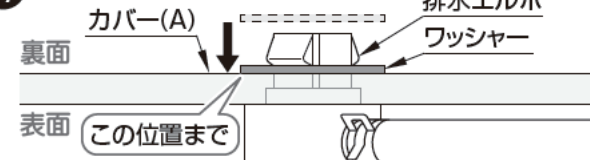
16 排水エルボの取り付け

【左にレバーハンドルがある場合】

【右にレバーハンドルがある場合】



17 ワッシャーの取り付け



※ワッシャーを少し傾けるとはめ込みやすくなります。
ワッシャーを取付後、外れないことを確認してください。

2 受信ユニットの取り付け

【汚物流し部】

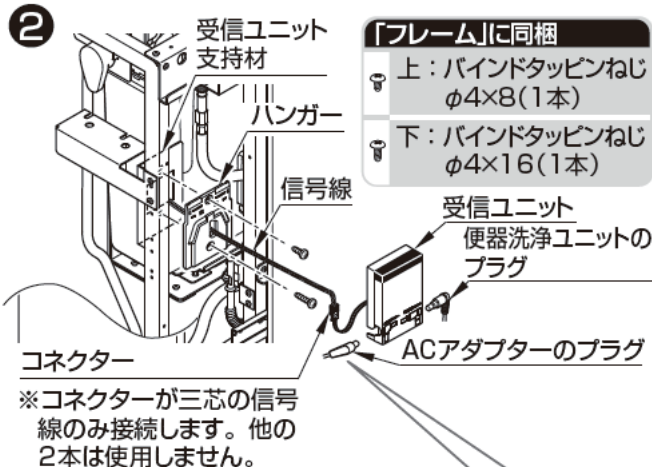
受信ユニットは点検口側への取り付けとなります。

1 受信ユニットをハンガーから外す



※強く上へあげますと信号線が切れるおそれがあります。

2



※コネクターが三芯の信号線のみ接続します。他の2本は使用しません。

【便器洗浄ユニットのプラグ】



【ACアダプターのプラグ】



注意

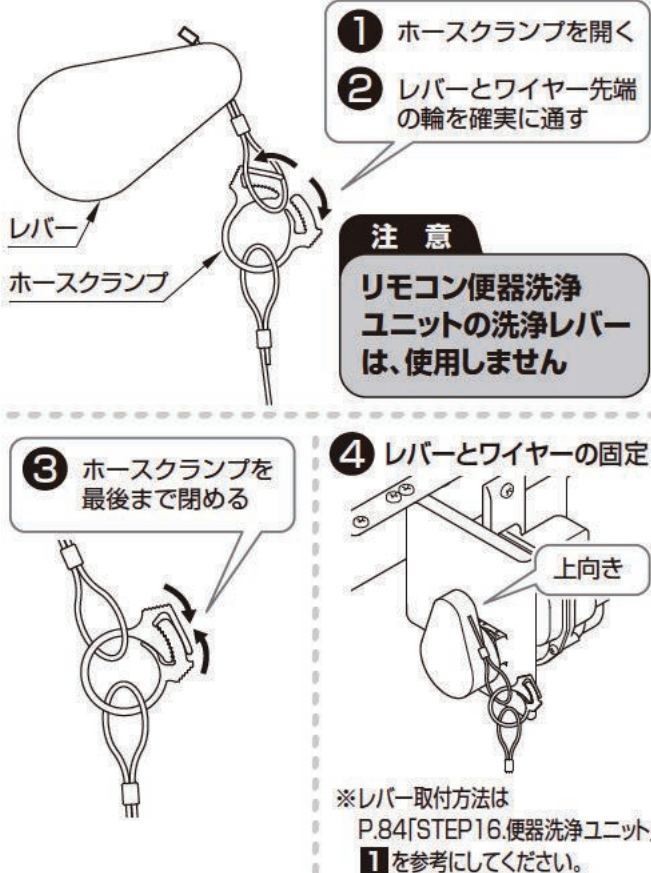


禁止

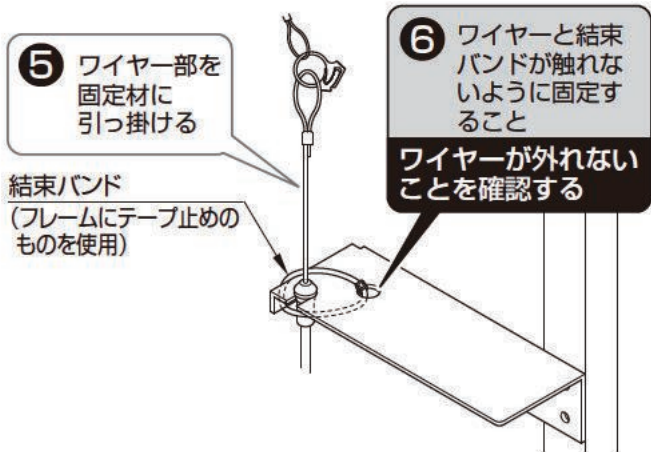
プラグを逆に差し込まない
壊れる可能性があります。

3 ワイヤーユニットの取り付け

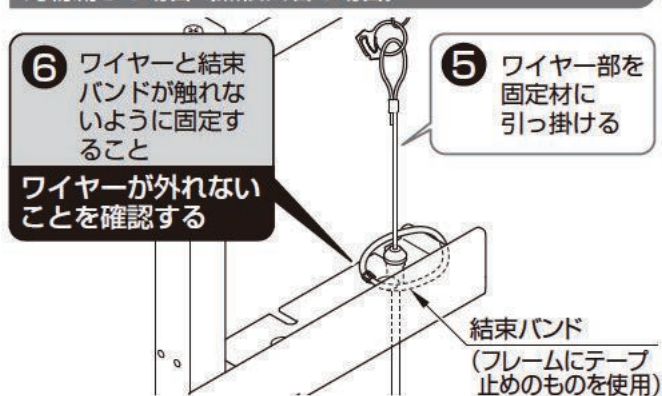
※停電対応の場合



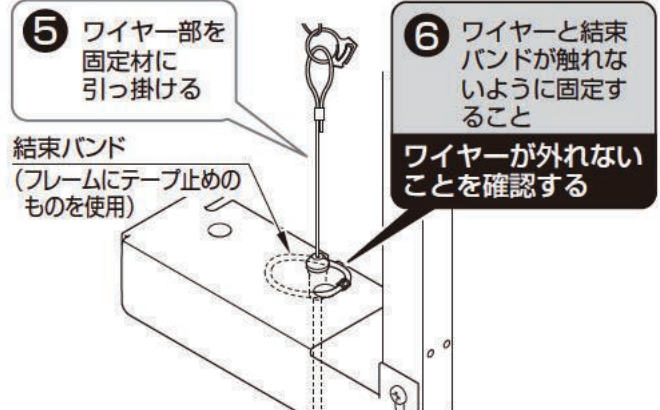
大便器の場合



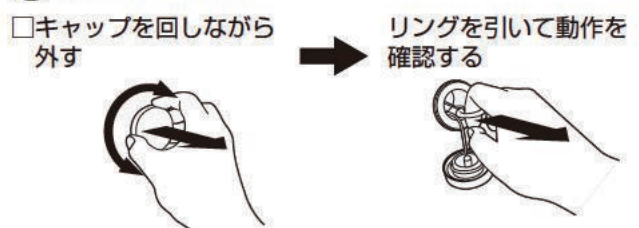
汚物流しの場合 (点検口右の場合)



汚物流しの場合 (点検口左の場合)



7 下記内容を確認

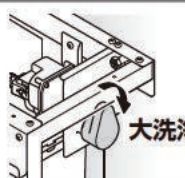


☐ リングを引いて、タンク内の排水弁が引き上がることを確認する

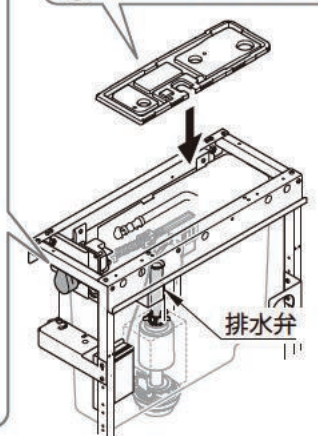
左に洗浄レバーがある場合



右に洗浄レバーがある場合



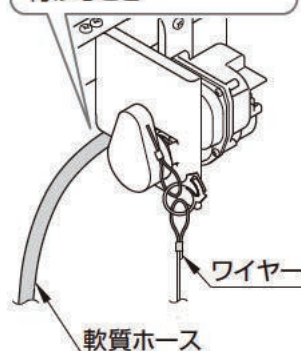
8 カバー(A)を付ける



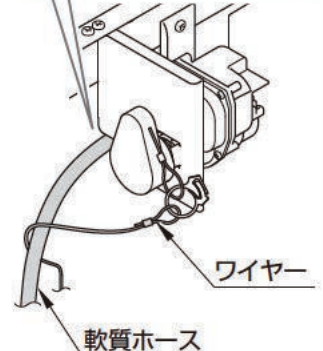
注意

ワイヤーと軟質ホースを絡ませないこと
洗浄レバーが正常に作動しません。

軟質ホースを切り欠きに
通してからワイヤーを取り
付けること



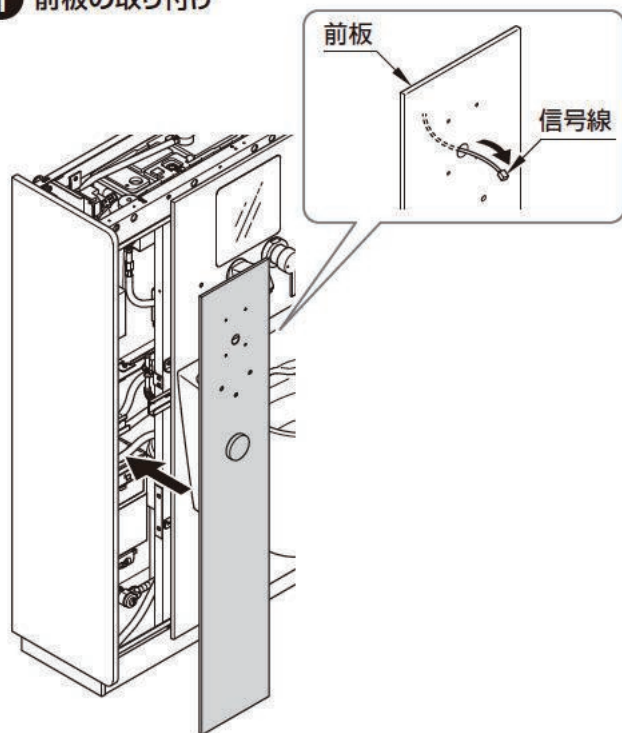
ワイヤーを軟質ホースの
後ろにしないこと



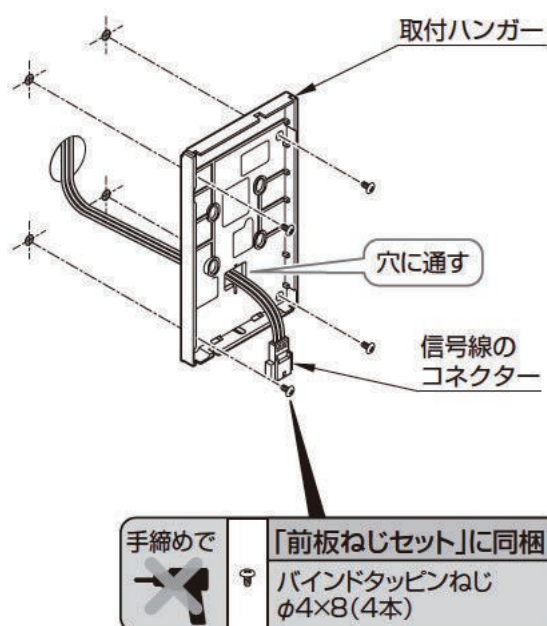
STEP17.タッチスイッチ

1 タッチスイッチの取り付け

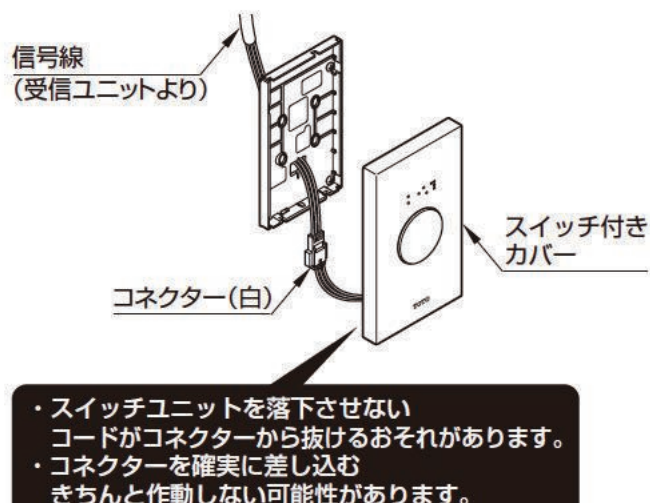
① 前板の取り付け



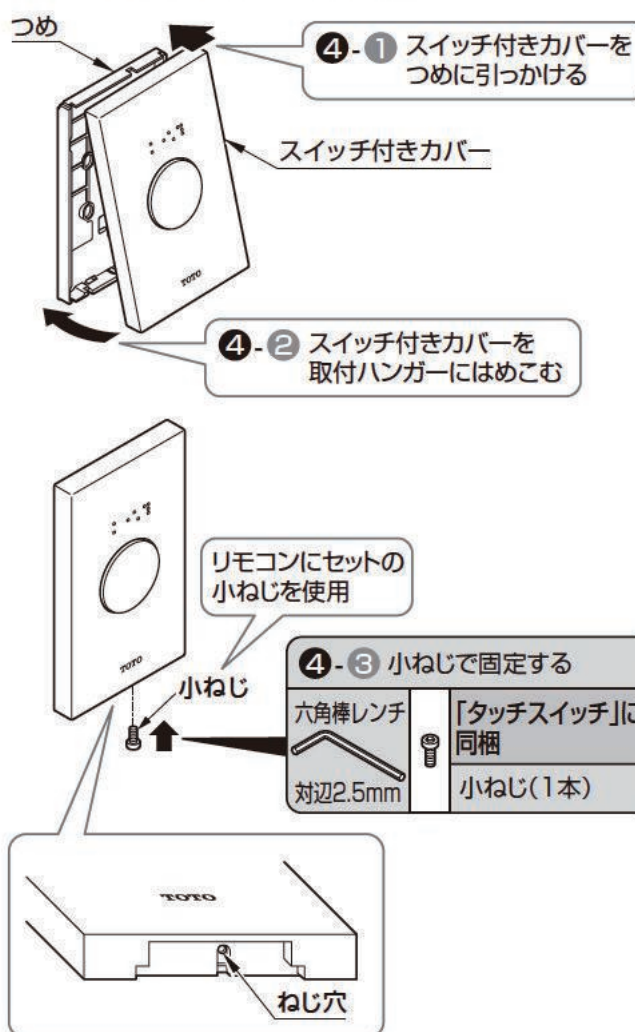
② 取付ハンガーの取り付け



③ コネクターの接続

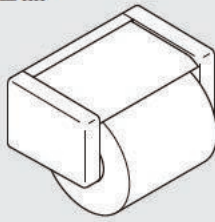


④ スwitch付きカバーの取り付け



STEP18.器具類

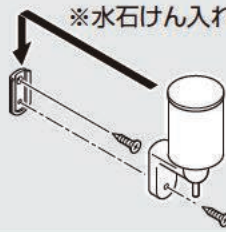
1 紙巻器



▶ P.88

2 汚物流し用水石けん入れ

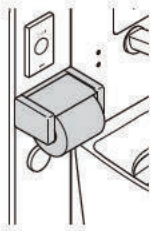
※水石けん入れありの場合



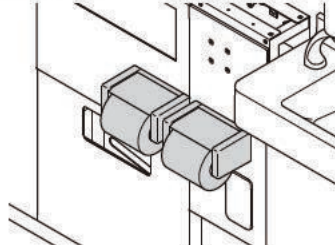
▶ P.88

1 紙巻器

汚物流し部用



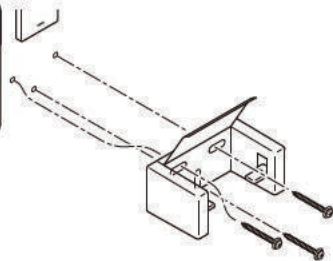
操作系部用



※操作系部用紙巻器は
P.96「STEP21.大便器周辺器具類」
取付後、紙巻器を取り付けてください。

取り付け

「紙巻器」に同梱
座金組込ナベ
タッピンねじ
φ4.5×25(3本)



注意

紙巻器の位置をあわせる
前板が外せない場合があります。

2つの紙巻器の
上端をあわせる

前板のあわせと
紙巻器をあわせる

⚠ 注意



必ず守る

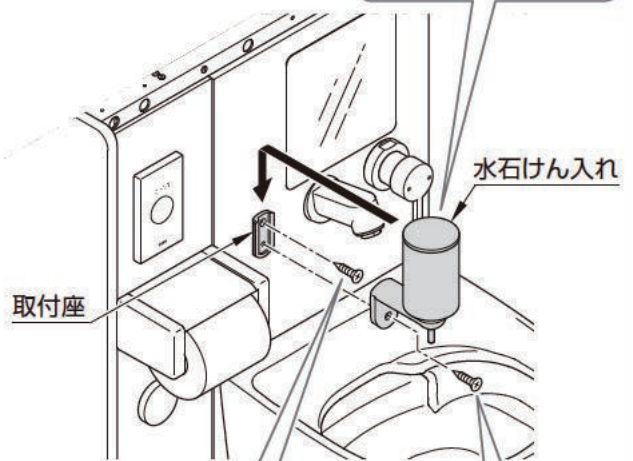
取付完了後、商品にガタツキがないことを
確認する
商品にガタツキがあると、商品が外れたり、壁が
壊れたりして使用される方が転倒し、けがをする
おそれがあります。

2 汚物流し用水石けん入れ

※水石けん入れありの場合

皿タッピンねじ
φ4.5×30(2本)

② 水石けん入れを
上から差し込む

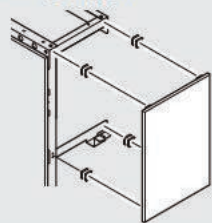


① 取付座を上側の皿タッピンねじ
1本で取り付ける

③ 下側のねじで
共締めする

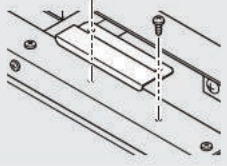
STEP19.甲板

1 側面パネルの 取り付け



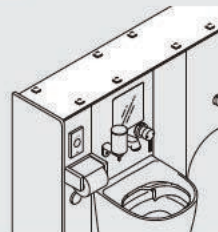
▶P.89

2 底目地受材・ 底目地材 の取り付け



▶P.90

3 甲板の取り付け



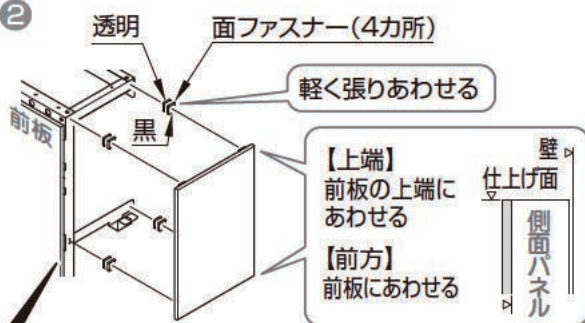
▶P.92

1 側面パネルの取り付け

① 大便器部上の側面パネルの仮組み

①-① 養生フィルムをはがす

①-②



脱脂



フレームのほこり・
油分除去
接着力低下防止

①-③ 面ファスナーの確認

面ファスナー(黒)が側面パネルの裏面に全て張り付いているか側面パネルを一度取り外し、確認してください。

【面ファスナーがフレーム側に残っている場合】

(1) 面ファスナー(黒)を外す

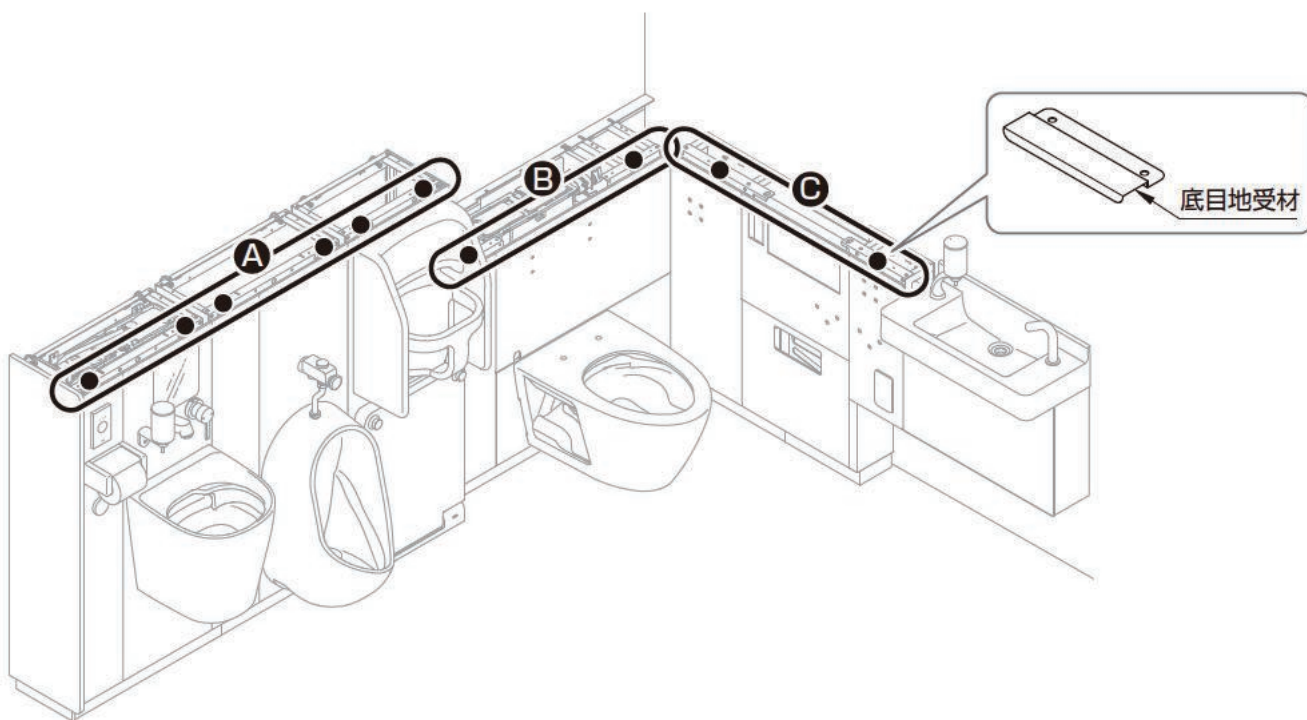
(2) フレーム側の面ファスナー(透明)の位置にあわせて、
面ファスナー(黒)を側面パネルに張り直す

MEMO

2 底目地受材・底目地材の取り付け

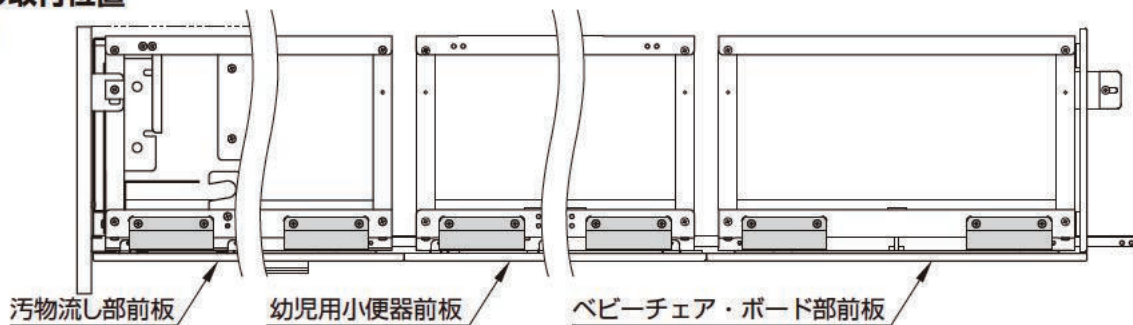
底目地受材(●の位置)を取り付け(10カ所)、底目地材(A B Cの位置)を張り付ける(3カ所)

※ A がベビーチェア・ボード部、幼児用小便器部、汚物流し部の場合は、底目地材を重ねて張り付ける。

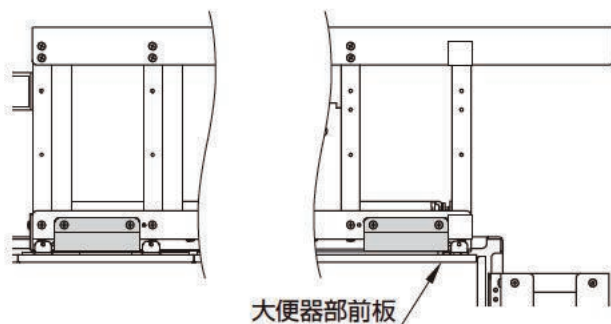


底目地受材の取付位置

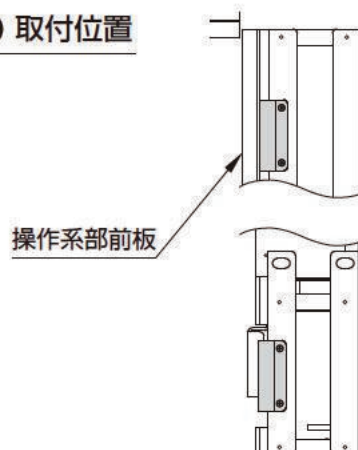
A 取付位置



B 取付位置

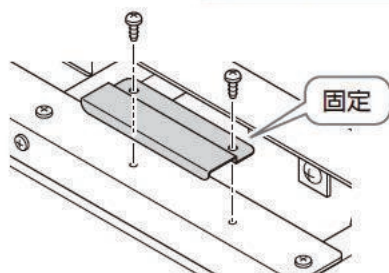


C 取付位置



① 底目地受材の取り付け

バインドタッピンねじ
φ4×8(2本)



② 各フレームの長さにあった底目地材を選定し、養生フィルムをはがす

③ 両面テープを張り付けて、剥離紙をはがす

両面テープ



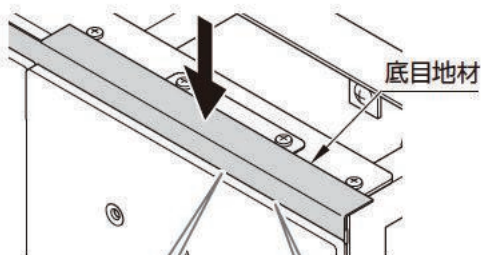
脱脂



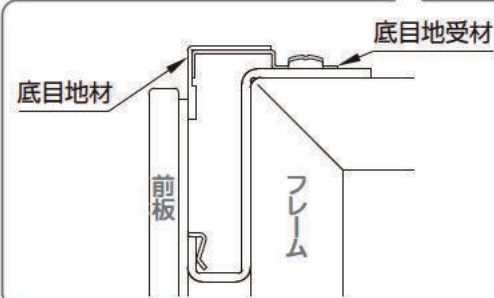
底目地材裏面の
ほこり・油分除去
接着力低下防止

両面テープ

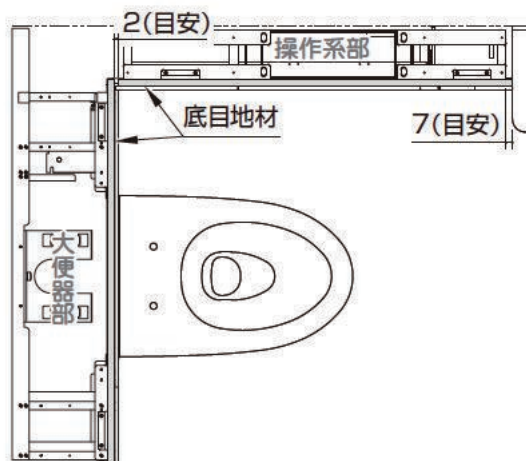
④ 底目地材の取り付け



底目地材を載せて
張り付ける



⑤ 底目地材の調整



大便器部底目地材端部を側面パネル
または側板に突き当てる

【ベビーチェア・ボード部、幼児用小便器部、汚物流し部の3器具がある場合】

側面パネル 底目地材端部

ベビーチェア・
ボード部

幼児用
小便器部

汚物流し部

側板

壁

⑤-①

長い底目地材の端部を
側面パネルの際にあわせる

⑤-②

底目地材の端部を汚物流し部の前板端面
にあわせ、A寸法-15mmとしてカットする
※A寸法-15mmが548mm以上の場合、
底目地材のカットは不要

A寸法
側板または
壁の仕上げ面



バリを取る

【ベビーチェア・ボード部、幼児用小便器部、汚物流し部の内、2器具以下の場合】

側面パネル 底目地材端部

2器具以下

B寸法

側板または
壁の仕上げ面

側板

壁

⑤-①

底目地材の端部を側面パネルの際に
あわせ、B寸法-15mmとしてカットする



バリを取る

3 甲板の取り付け

【側板なしの場合】
側面パネルの前面に
甲板をあわせ、壁仕
上げ面までの寸法で
カットする

カット

壁仕上げ面

すき間:2mm

A部

すき間:2mm

壁仕上げ面

すき間:2mm

180mmの
範囲に張る

A部

甲板は側面パネルと
同面の位置で取り付ける

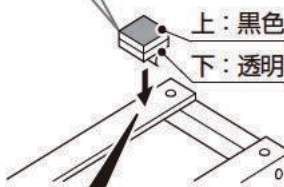


1 面ファスナーの張り付け

底目地受材やねじの上に
面ファスナーを張らない

①-① 最初に軽くはめあわせ、
剥離紙をはがす

①-② 剥離紙をはがす



フレームの
ほこり・油分除去
接着力低下防止

※ねじ頭を避け、上図を参考に前後1カ所ずつ張り付ける

2 甲板の取り付け



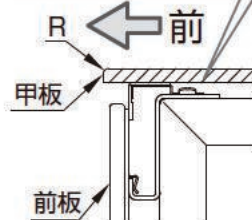
脱脂

甲板裏面のほこり・
油分除去
接着力低下防止

2-①

面取り側を必ず手前にする

上からしっかり押さえ付けて
面ファスナーをはめ合わせる



2-②

壁とのすき間2mm

※必要に応じて、「フレーム部
部品セット」に同梱のライナー
をスペーサーとして使用して
ください。

3 下記内容を確認

- ☐ 面ファスナー（黒）が甲板の裏面に全て張り付いているか甲板を一度取り外し、確認する。
- ☐ 面ファスナーが所定の箇所に張り付いているかを確認する。

【面ファスナーがフレーム側に残っている場合】

③-① 面ファスナー（黒）を外す

③-② フレーム側の面ファスナー（透明）の寸法にあわせて、面ファスナー（黒）を甲板に張り直す

注意

この段階では甲板にシリコン系シール剤を塗布しない

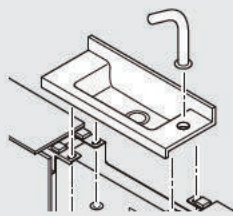
STEP20.手洗器

1 排水金具の取り付け



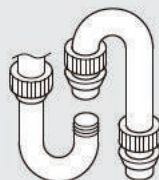
▶P.93

2 手洗器の取り付け



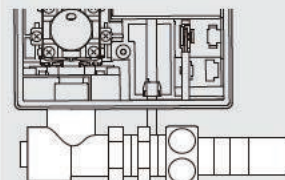
▶P.93

3 排水管の接続



▶P.93

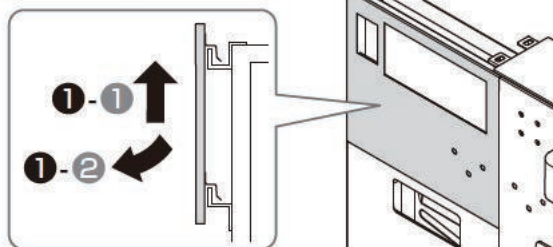
4 止水栓・給水管の接続



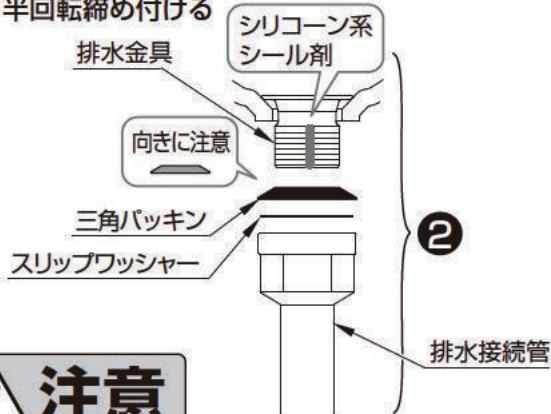
▶P.94

1 排水金具の取り付け

1 前板を外す



2 接続管を手締めで止まる位置まで回し、工具にて半回転締め付ける



⚠ 注意



接続管を締め過ぎない
排水金具が破損し、水漏れして建物や設備などをめらす財産損害発生の原因となります。
(接続管を手締めで止まる位置まで回し、工具にて半回転締め付けるくらいが適切です。)

排水金具に工具などを差し込まない
排水金具内の十字部の破損の原因となります。

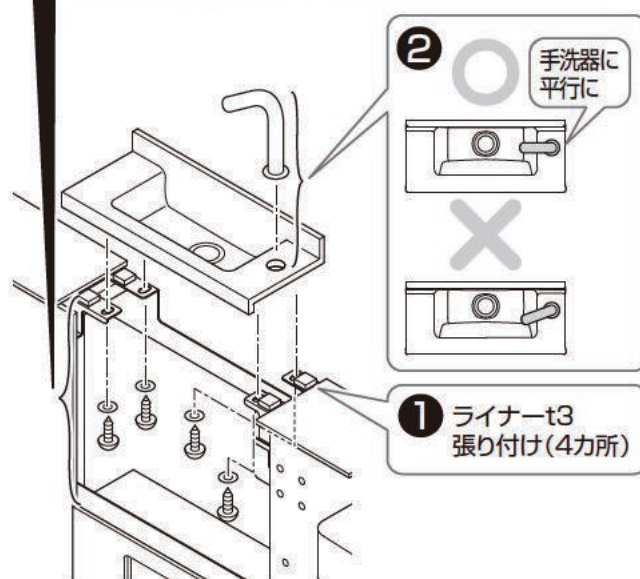


排水金具ねじ部には、必ずシリコン系シール剤を塗布する
水漏れして建物や設備などをめらす財産損害発生の原因となります。

2 手洗器の取り付け

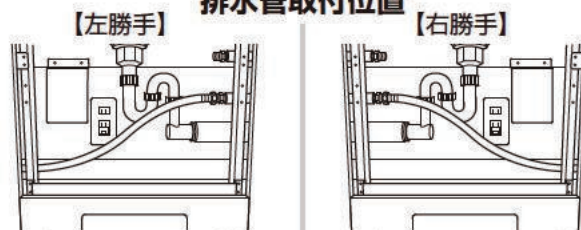
▶取付方法は自動水栓施工説明書参照

③ 手締めで	「手洗器」に同梱
✗	トラススタッピンねじ $\phi 4 \times 16$ (4本)
◎	平座金 (4個)



3 排水管の接続

排水管取付位置

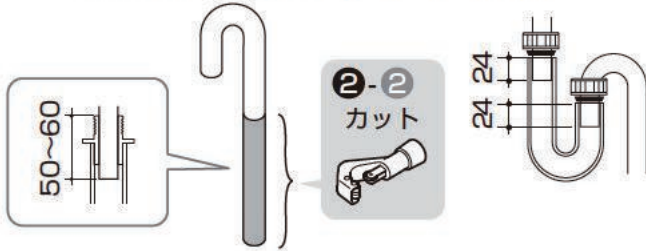


① 壁排水ソケットを排水管に仮固定する

※接着剤は塗布しないでください。

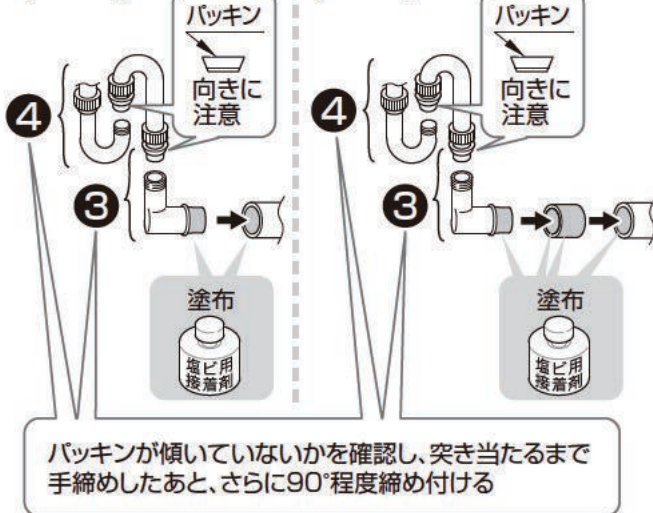
② トラップのカット

②-① トラップ(上)をトラップ(下)の奥まで入れる



【VP40】

【VU40】



③ 止水栓の向きを変える



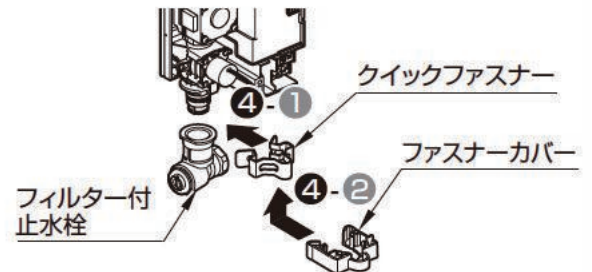
④ 止水栓を元に戻す

⚠ 注意



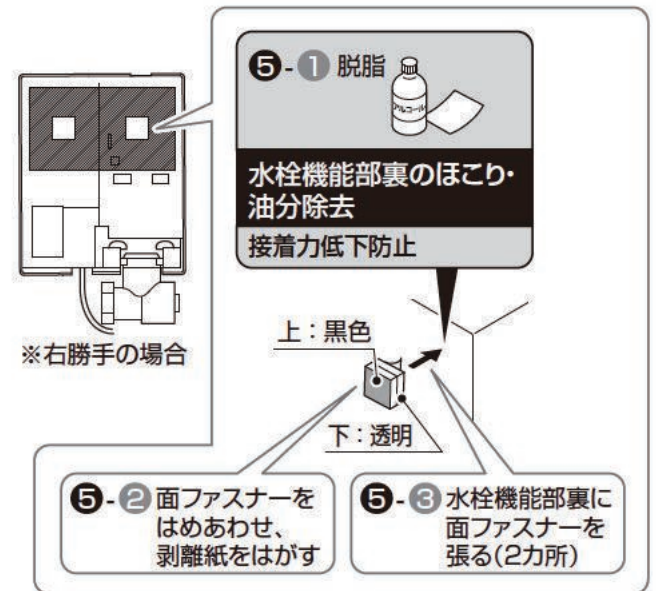
必ず守る

リングにゴミなどが付着していないことを確認する
水漏れして建物や設備などをめらす財産損害
発生の原因となります。



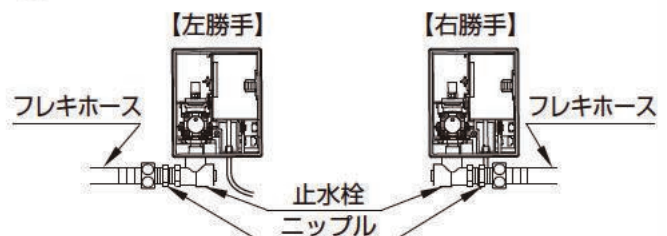
⑤ 水栓機能部裏への面ファスナー張り付け

面ファスナー張り付け範囲：■



自動水栓の取り付け

⑥ 止水栓とニップル、ニップルとフレキホースを接続する



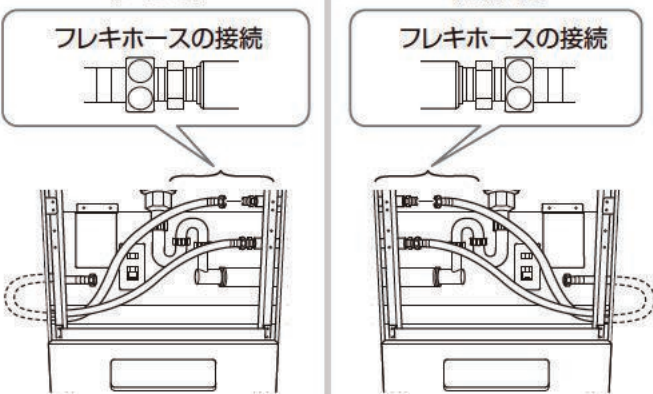
4 止水栓・給水管の接続

① 給水の準備

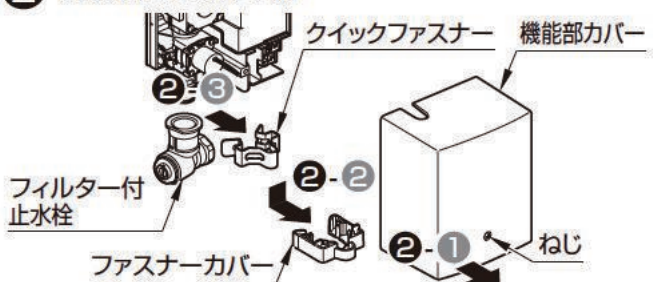
フレキホースの接続▶P.51 参照

【左勝手】

【右勝手】



② 自動水栓の取付準備



⑦ 自動水栓とスパウト側の給水栓と接続する

▶ 水栓同梱施工説明書参照

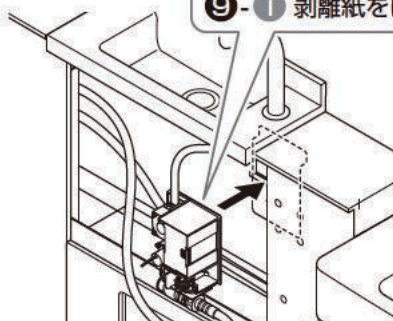
⑧ 水栓機能部取付板を脱脂する

面ファスナー張り付け範囲：■



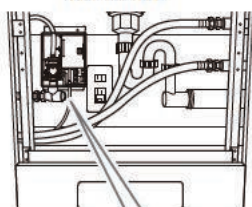
⑨ 水栓機能部の固定

⑨-① 剥離紙をはがす

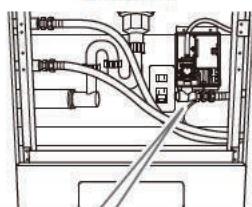


水栓機能部取付位置

【左勝手】

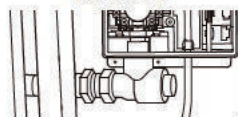


【右勝手】

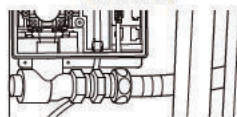


⑨-② 止水栓固定用の穴が見えるように固定する

【左勝手】



【右勝手】



⑩ 機能部カバーを取り付ける

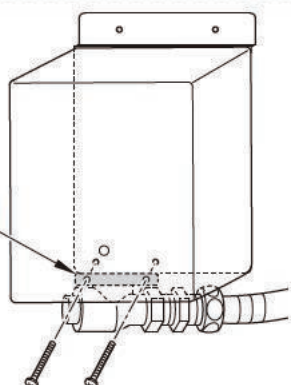
⑪ 止水栓の固定

なべ小ねじ
M4×50(2本)

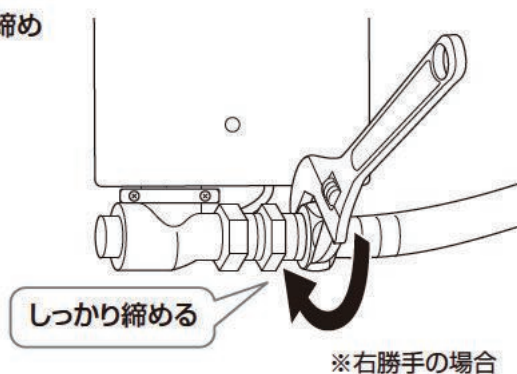
手締めで



止水栓固定材



⑫ 増し締め



※ 右勝手の場合

⑬ コンセントに差し、外した前板を取り付ける

MEMO

STEP21.大便器周辺器具類

1 L型手すりの取り付け

▶P.96

2 ウォシュレットの取り付け

▶ウォシュレット施工説明書参照

3 前板(大便器上)・背もたれの取り付け

▶P.98

4 サイドカバーの取り付け

▶P.99

5 はね上げ手すりの取り付け

▶はね上げ手すり施工説明書参照

1 L型手すりの取り付け

2 水平確認 → けがき



3 手すりをいったん外す

4 下穴



【耐水合板下地の場合】
下穴φ4
【コンクリート下地の場合】
下穴φ6、深さ85mm以上

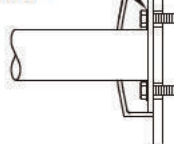
1 壁固定穴をけがくため仮固定する

全ねじ六角ボルト
M6×25(8本) ばね座金
M6(8個)

5 L型手すりの取り付け(下部2カ所)

操作系部前板

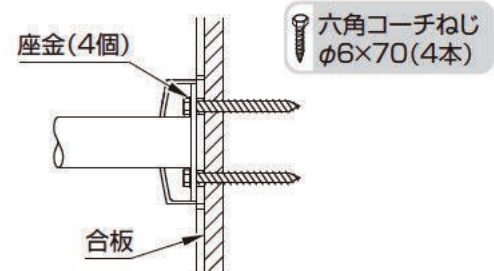
ばね座金M6
(8個)



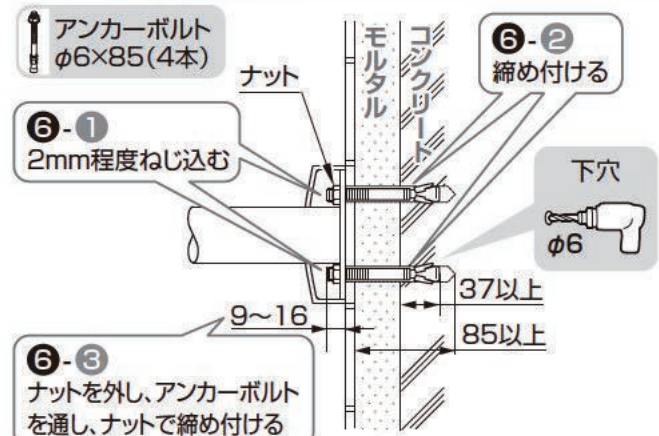
全ねじ六角ボルト
M6×25(8本)

6 L型手すりの取り付け(上部1カ所)

耐水合板下地の場合



コンクリート下地の場合



7 カバーを仕上げ面に押し付ける

注意



必ず守る

手すりにガタツキやゆるみがないか
確認する
手すりが外れ、けがをするおそれがあります。

2 ウォシュレットの取り付け

▶ウォシュレット施工説明書参照

注意



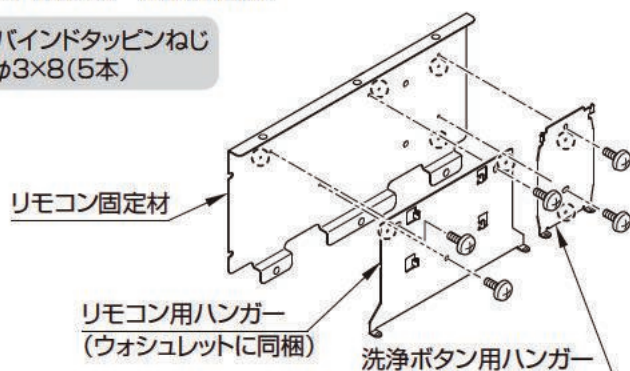
必ず守る

再生水仕様の場合、ウォシュレットの給水接続は水道水と再生水を間違えない
故障や皮膚の炎症などをおこす原因となります。

ウォシュレットリモコンの取り付け

① 各ハンガーのねじ固定

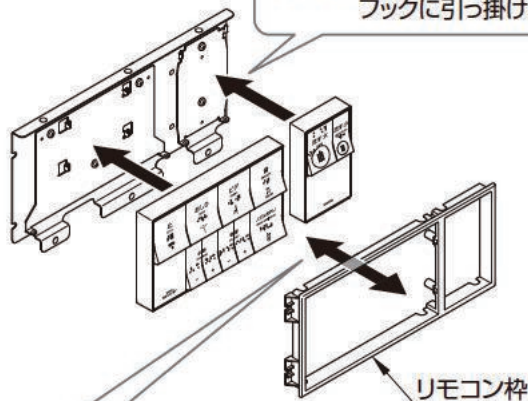
バインドタッピンねじ
φ3×8 (5本)



※○穴位置が合うように固定する。

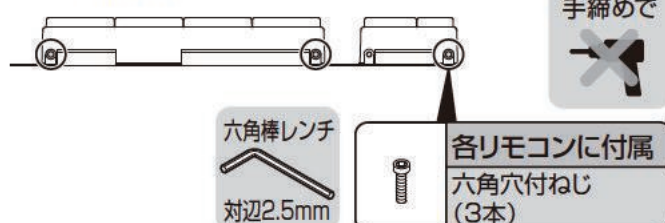
② 各リモコンのねじ固定

②-① 各リモコンをハンガーのフックに引っ掛ける



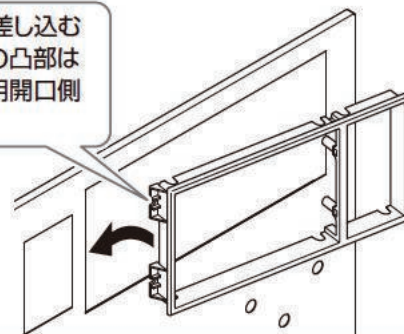
②-② リモコン枠を仮置きし、スムーズに外せることを確認する
(スムーズに着脱できない場合は ① の位置を確認する)

②-③ リモコン固定材とリモコンを下側から固定する



③ 前板の養生フィルムをはがし、枠を入れる

横の凸部側から差し込む
※リモコン枠横の凸部は
呼出しボタン用開口側
にする。



④ リモコン枠とリモコン固定材の仮固定 (4カ所)

手締めで

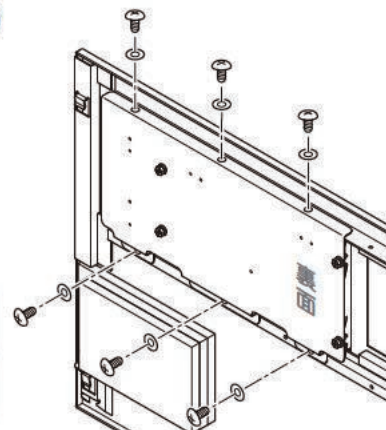


座金組込十字穴付
六角小ねじ
M4×10 (4本)

⑤ リモコン固定材を前板裏面のフレームに仮固定 (6カ所)

バインドタッピンねじ
φ4×8 (6本)

平座金
M6 (6個)



⑥ リモコンとリモコン枠のすき間が均等になるように調整して ④ と ⑤ の各ねじを本固定

⑦ リモコン横にふさぎプレートを取り付ける

▶P.69 「STEP11.前板 (取り付け) ③」参照

⑧ 前板をライニングに取り付ける

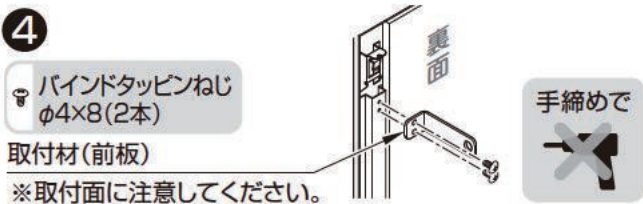
※通電後にリモコン便器洗浄ユニットの便器洗浄リモコン
取付説明書を参照し、リモコンとウォシュレットの「組み合
わせ設定」を行ってください。

※「ウォシュレット本体とウォシュレットリモコンの組み合
わせ設定」・「便器洗浄モードの設定」は不要です。

3 前板(大便器上)・背もたれの取り付け

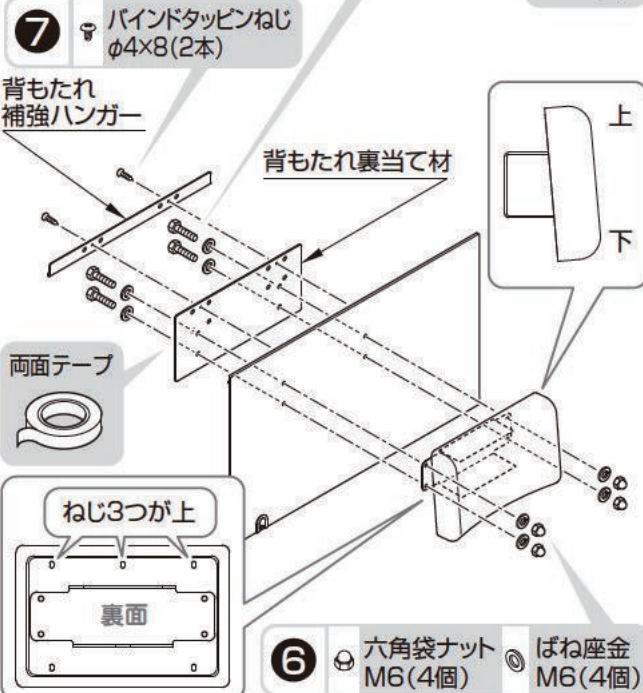
共通(大便器の裏前板)

- 1 大便器部の甲板を外す
- 2 前板(大便器上)を外す
- 3 U字切り欠き部分にゴム系接着剤でU字用ブッシュを接着

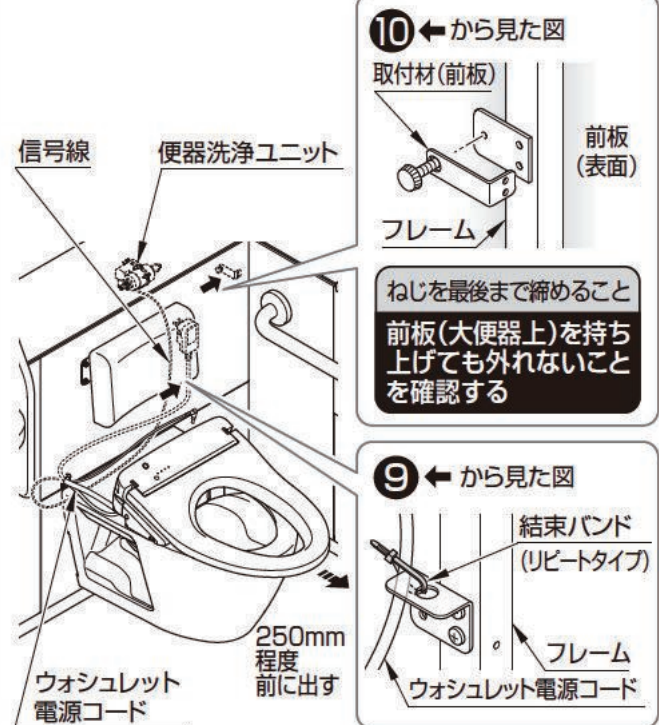
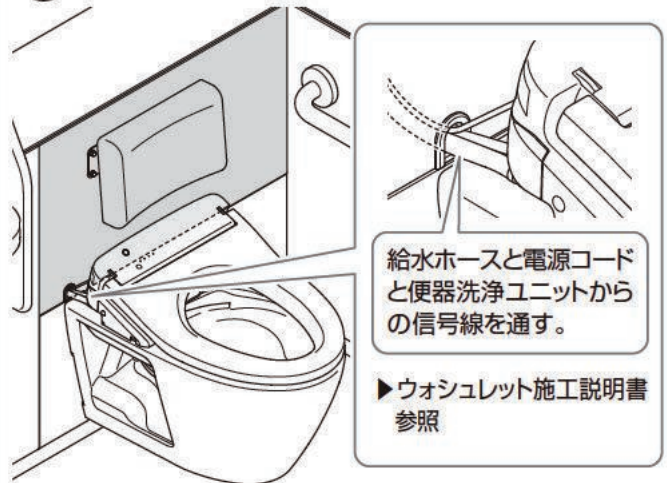


パウチ・しぶん洗浄水栓なし・背もたれありの場合

- 5 前板(大便器上)の裏に背もたれ裏当て材を
両面テープで張り付けておく



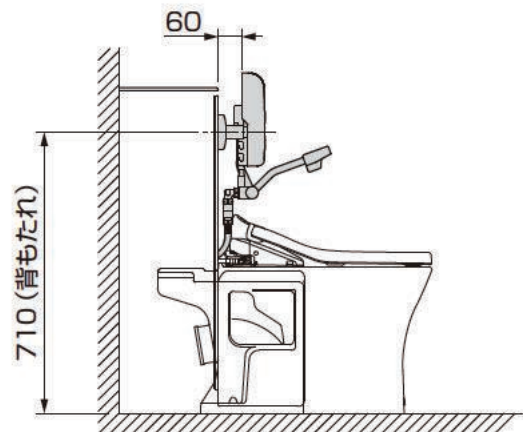
8 前板(大便器上)を取り付ける



11 大便器部の甲板を取り付ける

パウチ・しぶん洗浄水栓付背もたれの場合

背もたれ取付位置(前出)



⑤ 給水ホースを止水栓に取り付ける

▶接続位置はSTEP4を参照

⑥ 背もたれ裏当て材は前板(大便器上)の裏に両面テープで張り付けておく

背もたれ
補強ハンガー

⑦ 仮固定

座付ナット M6(8個) 平座金 M6(8個)

両面テープ

背もたれ
裏当て材

※ねじ穴を上

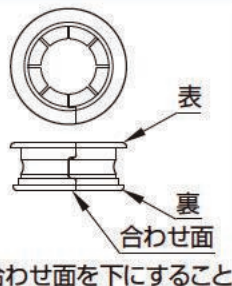
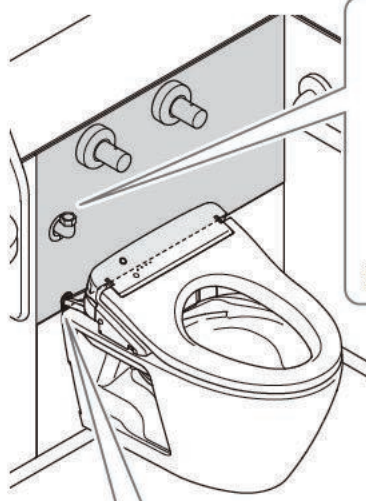
⑨ 本固定

脚フレーム

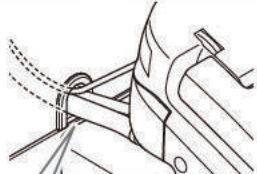
⑧ 水平確認

六角ボルト M6×30(8本) ばね座金 M6(8個)

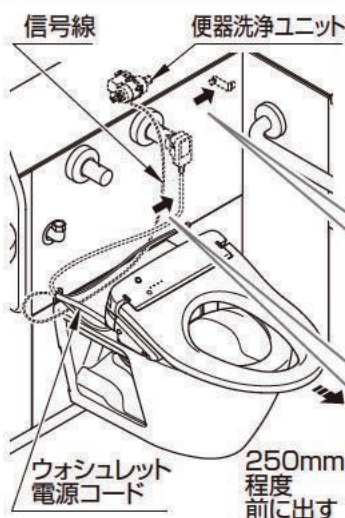
⑩ 前板(大便器上)を取り付ける



▶ウォシュレット施工説明書参照



給水ホースと電源コードと便器洗浄
ユニットからの信号線を通す



⑫ ← からの見た図

取付材(前板)

フレーム

前板
(表面)

⑪ ← からの見た図

結束バンド
(リビートタイプ)
フレーム
ウォシュレット電源コード

⚠ 注意



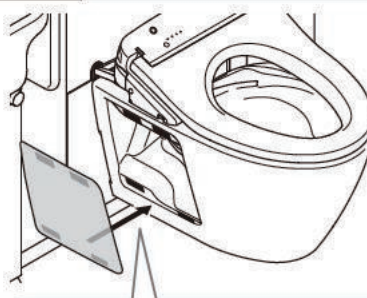
必ず守る

- ・前板で給水ホースを挟まないように注意して取り付ける
- ・給水ホースがキンクしないよう注意する
水漏れして建物や設備などをめらす財産損害
発生の原因となります。

⑬ 背もたれを取り付ける

▶パウチ・びん洗浄水栓および専用背もたれ施工説明書参照

4 サイドカバーの取り付け



カバーの養生フィルムをはがしてサイドカバーの面ファスナーと
便器の面ファスナーの位置をあわせて取り付け

※ウォシュレットを「カチッ」と音がするように取り付けてください。

5 はね上げ手すりの取り付け

▶はね上げ手すり施工説明書参照

MEMO

STEP22. 試運転・確認

1 水漏れ・通水確認



▶P.100

2 水位確認



▶P.102

3 外観・固定部の確認



▶P.105

4 ラベルの張り付け



▶P.105

5 シリコン系 シール剤の塗布



▶P.105

1 水漏れ・通水確認

【幼児用小便器部 （幼児用小便器ありの場合）】

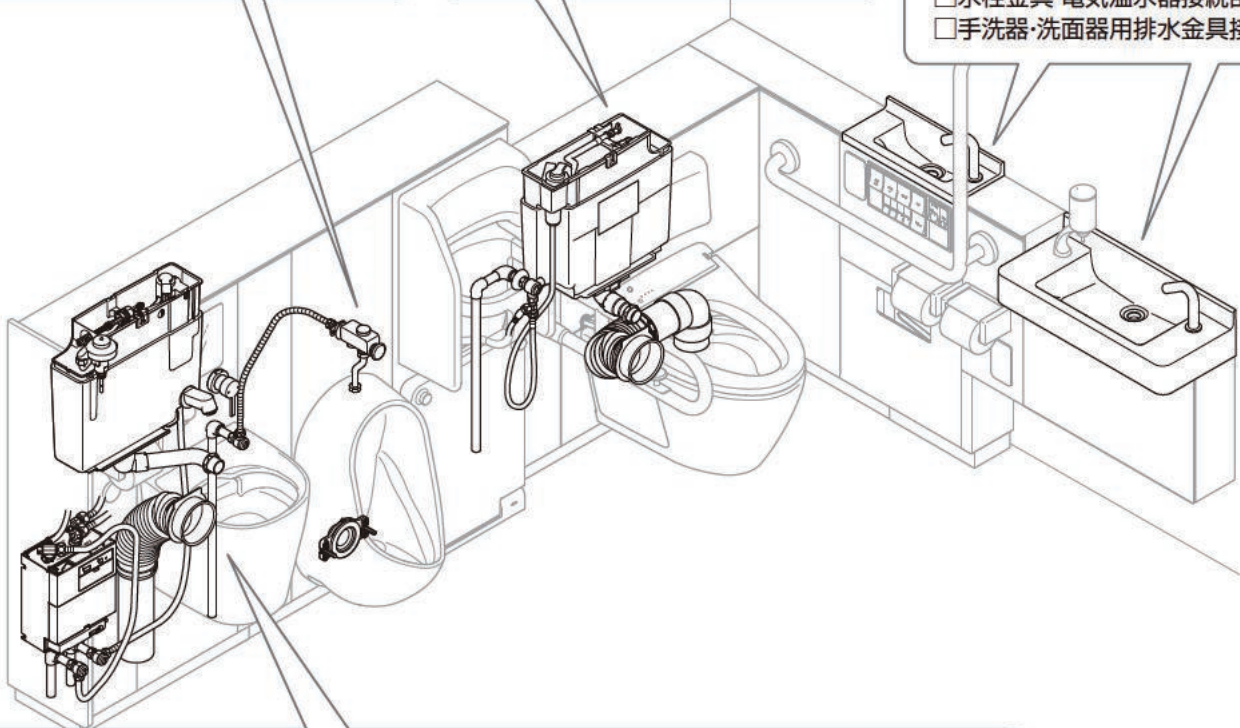
- ☐ 給水一次側（給水管接続部・止水栓まわり）
- ☐ 排水フランジ接続部
- ☐ フラッシュバルブ接続部

【大便器部】

- ☐ 給水一次側（給水管接続部・止水栓まわり）
- ☐ セットタンク接続部
- ☐ 排水ジャバラ接続部
- ☐ ウォシュレット分岐金具接続部

【操作系部・洗面器部 （洗面器ありの場合）】

- ☐ 給水一次側止水栓接続部
- ☐ フレキホース接続部
- ☐ 手洗器・洗面器用止水栓接続部
- ☐ 水栓金具・電気温水器接続部
- ☐ 手洗器・洗面器用排水金具接続部



【汚物流し部（汚物流しありの場合）】

- ☐ 給水一次側（給水管接続部・止水栓まわり）
- ☐ セットタンク接続部
- ☐ 排水フランジ・排水ジャバラ接続部
- ☐ 水栓金具（シングルレバー・スバウト）・電気温水器・バキュームブレーカー・サーモスタット接続部

※大便器部・手洗器部・洗面器部・幼児用小便器部・汚物流し部（幼児用小便器部・汚物流し部ありの場合）の排水接続部に水漏れが見られる場合は、排水パッキンの取り付けから再施工してください。

① 通水確認

【ポイント】

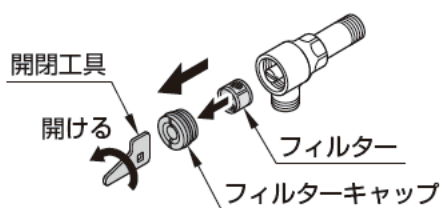
- ☐ 全ての器具、配管などの連結部が完全に接続されているか
- ☐ 電気配線に間違いがないか
- ☐ 電気温水器の試運転は、電気温水器の施工説明書を確認
- ☐ 元バルブ開閉は静かにゆっくりと開閉する
- ☐ 止水栓・スパウトのフィルター・網目に詰まった異物はブラシなどで取り除く
(初期通水の場合、配管工事上の異物が混入していることがあるため、各器具部で詰まり、噛みこみが発生し、正しい流量・作業が確保されないことがある)

⚠ 注意



必ず守る

- ・通水試験後に止水栓のフィルター清掃を行う(自動水栓、電気温水器)
フィルターに付着したゴミが機器内に入り、水漏れして建物や設備などをめらす財産損害発生の原因となります。
- ・フィルター清掃時は、いきなりフィルターキャップをゆるめずに、止水栓を閉めてから行う
水が噴き出して、建物や設備などをめらす財産損害発生の原因となります。



② 必要な水圧の確認

最低必要水圧:0.05MPa(流動時)

最高水圧:0.75MPa(静止時)

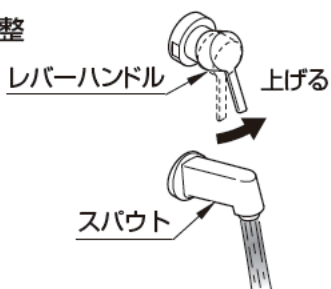
汚物流しの場合

③ 汚物流し吐水流量の調整

【水出し確認】

- ☐ レバーハンドルを上げて、吐水口から水が出るか

- ☐ 水栓本体、レバーハンドルにガタツキがないか

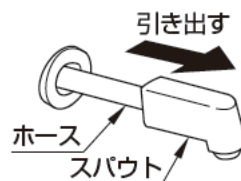


故障ではありません

- ▶ 吐水はじめに、一度少量の水が出て一瞬止まり、その後本吐水しはじめる
バキュームブレーカーとスパウトの間のホースに残った水が一度スパウトから排出されるものであり、故障ではありません。
- ▶ 水栓の水を止めたあと、スパウトからしばらく水が垂れる
水栓内部の残留水が排出されるものであり、故障ではありません。

【操作確認】

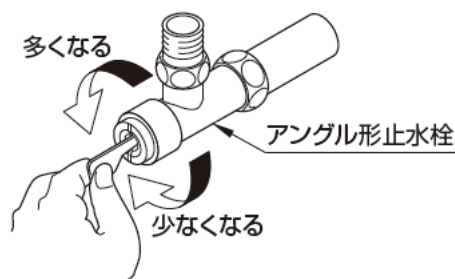
- ☐ スパウトが汚物流しボウルの先端付近までスムーズに引き出せるか



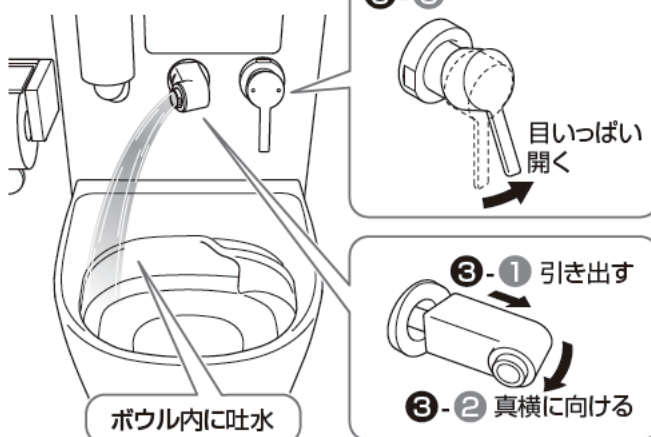
- ▶ 引き出せない場合は、ホースがフレーム内で各器具に干渉していないか確認してください。

【吐水流量の調整、および温度の確認】

全閉した状態から調整をはじめてください。



《吐水流量の調整》



※ハンドルを目いっぱい開いても、吐水が汚物流しのボウル内に納まるように、止水栓で水勢を調整ください。

⚠ 注意



必ず守る

吐水流量の調整は必ず行う
吐水が汚物流しの外に飛び出し、建物や設備などをめらす財産損害発生の原因となります。

幼児用小便器の場合

(吐水量の調節手順)

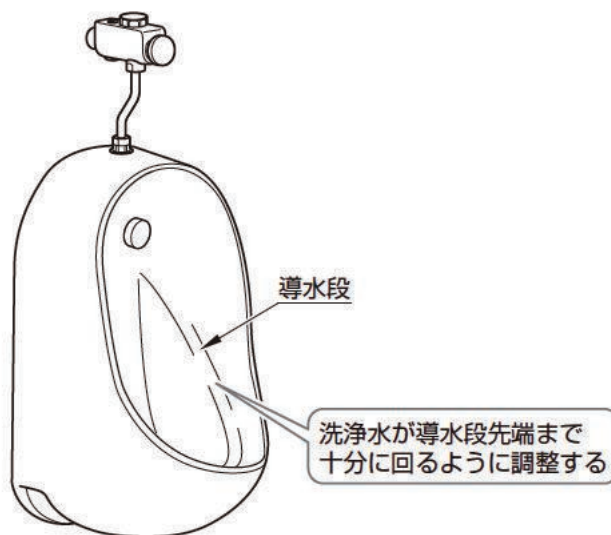
④ フラッシュバルブの止水栓を全閉にする

⑤ 水を流しながら徐々に止水栓を開けていき、
小便器の先端まで水が回るように調整する

【手押しフラッシュバルブ】



※水の勢いが強すぎると、洗浄飛沫・水飛びが多く発生する場合があります。



2 水位確認

水たまり面が低い場合は必ず設定してください。

正常な状態

設定変更不要です。



設定を行うと、洗浄不良になる場合があります。

水たまり面が低い

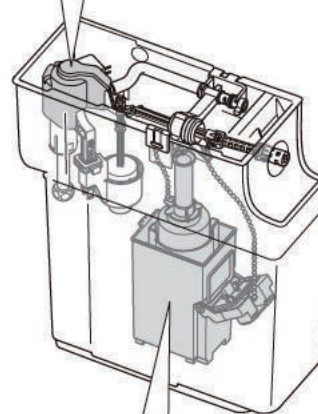
▶ P.103

「水たまり面が低い場合の
対応方法」汚物付着の原因となります。
〈水たまり面 低下の理由〉
・排水管に曲がりが多い
・通気が不十分

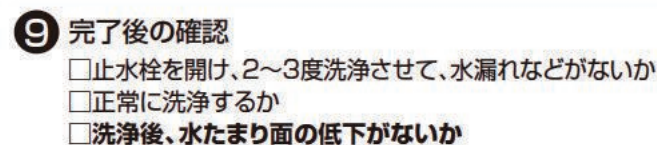
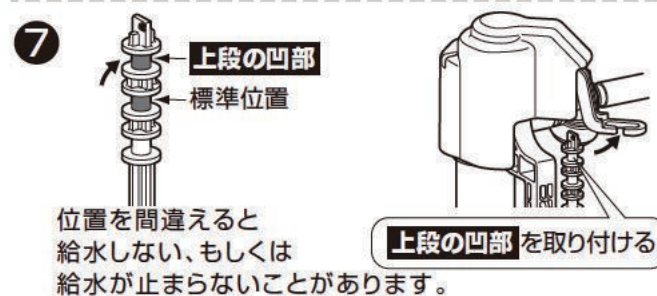
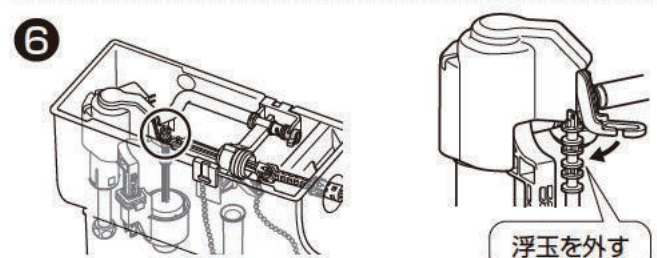
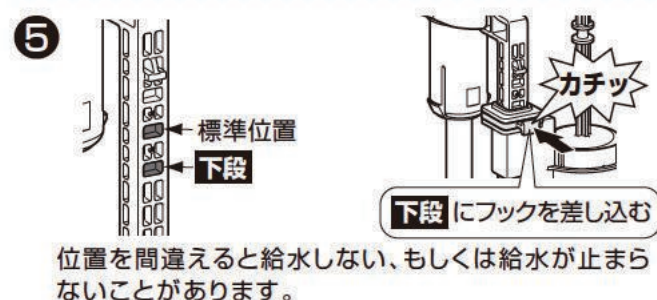
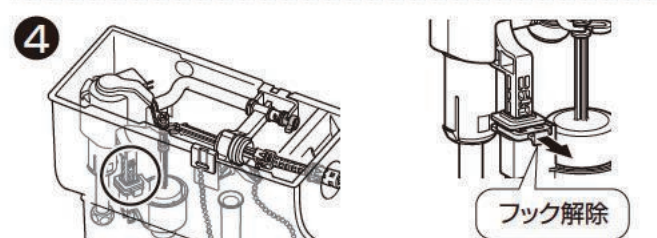
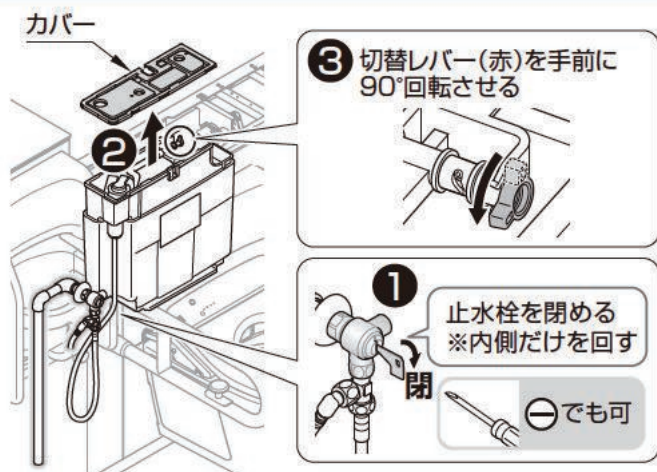
〈水たまり面の判断に迷ったときは…〉

ベットボトルやバケツなどで徐々に水をたし、
水たまり面が上昇しない場合は正常です。

タンク内を調整する際のご注意

漏水防止カバーを
外さない制御筒に力を加えない
排水弁が浮いて、水が流れっぱなしに
なるおそれがあります。

水たまり面が低い場合の対応方法



自治体によって洗浄水量の規制がある場合

【変更前】

大洗浄	4.8L
小洗浄	3.6L

大洗浄	6L
小洗浄	4.8L

大洗浄	8L
小洗浄	7.5L

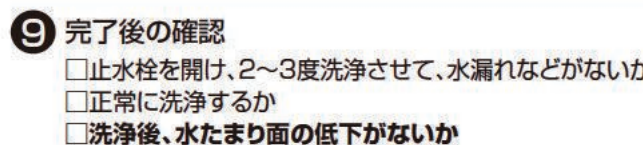
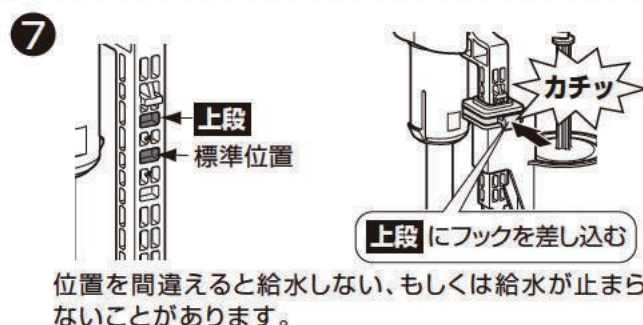
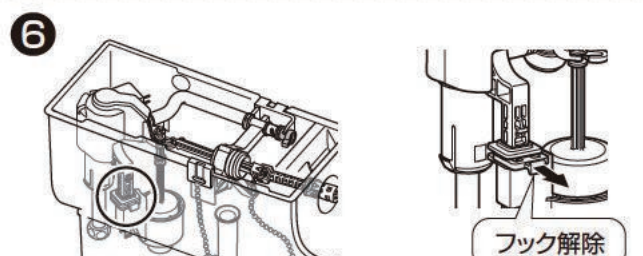
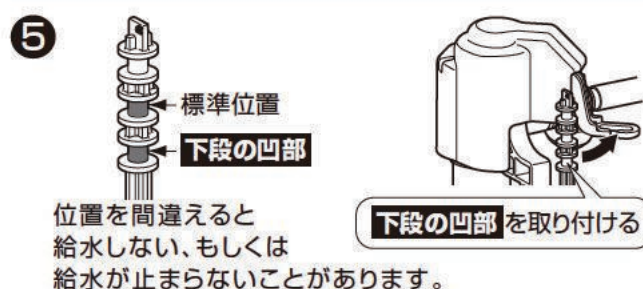
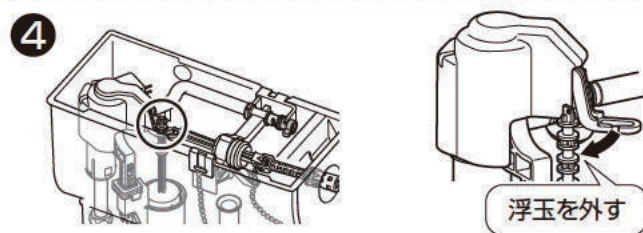
変更
できます。

大洗浄6L、小洗浄4.8L への切替方法

①～③

▶P.103左 水たまり面が低い場合の対応方法 の

①～③を実施

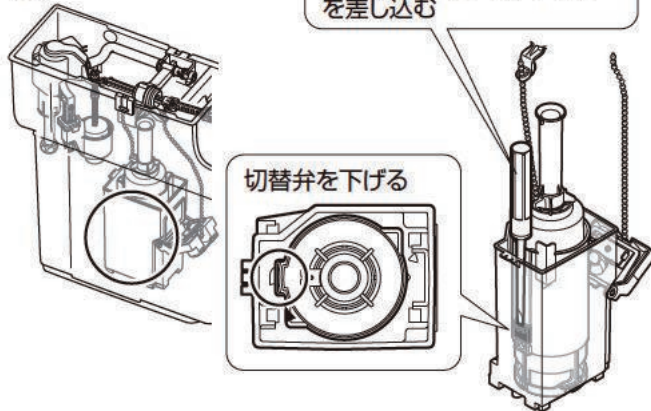


大洗浄8L、小洗浄7.5L への切替方法

①～⑦

▶P.103右 大洗浄6L、小洗浄4.8L の①～⑦を実施

⑧



⑨ カバーを元にもどす

⑩ 完了後の確認

- ☐ 止水栓を開け、2～3度洗浄させて、水漏れなどがないか
- ☐ 正常に洗浄するか
- ☐ 洗浄後、水たまり面の低下がないか

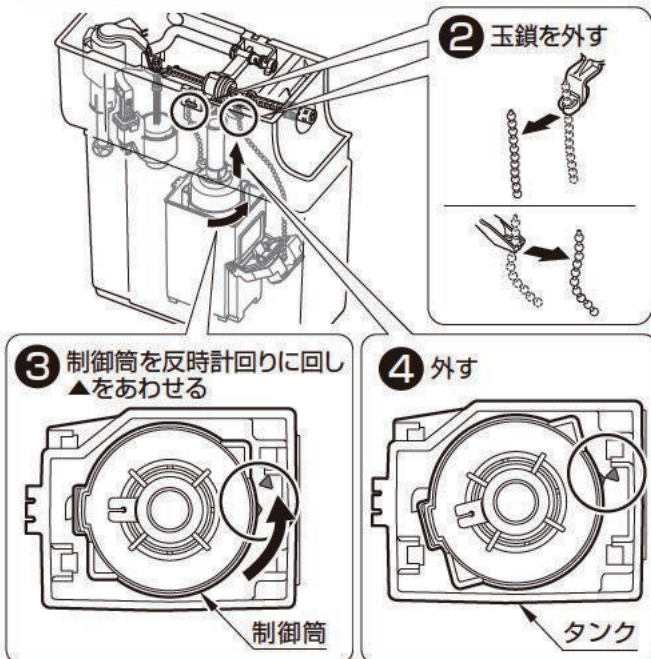
切替弁を下げられなかった場合

① カバーを外す

② 玉鎖を外す

③ 制御筒を反時計回りに回し▲をあわせる

④ 外す



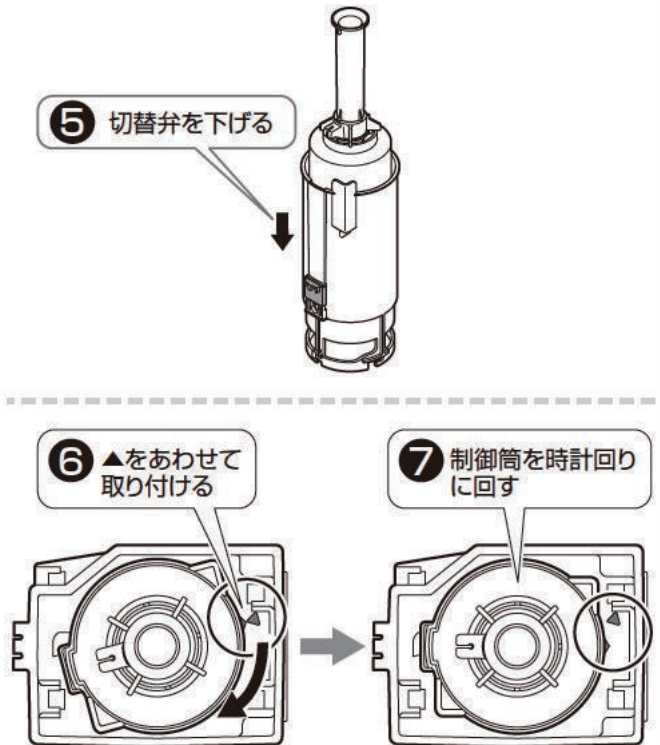
注意

制御筒の取り外し時に樹脂タンクに傷を付けないこと

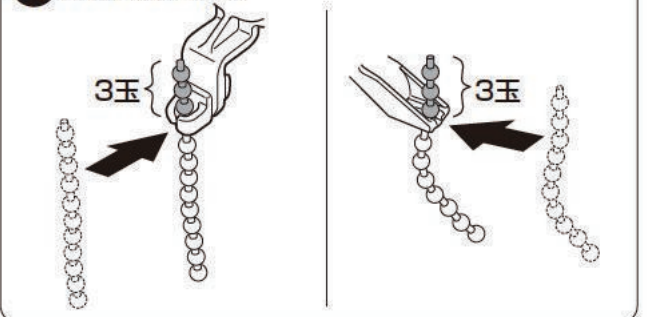
⑤ 切替弁を下げる

⑥ ▲をあわせて取り付ける

⑦ 制御筒を時計回りに回す



⑧ 玉鎖を取り付ける



正しく取り付けないと止水不良になります。

⑨ カバーを元にもどす

⑩ 完了後の確認

- ☐ 止水栓を開け、2～3度洗浄させて、水漏れなどがないか
- ☐ 正常に洗浄するか
- ☐ 洗浄後、水たまり面の低下がないか

3 外観・固定部の確認

【外観に問題がないことを確認】

- ☐ 取り付け忘れの器具がないか
- ☐ 寸法が間違っていないか(奥行き・高さ・間口寸法)
- ☐ 水平・垂直が正しくとれているか
- ☐ フレーム内部が露出していないか
(前板・フィラー・幅木が正しく取り付けられているか。)
- ☐ 陶器表面に傷などないか

【取付部の固定はゆるんでいないかを確認】

警告



必ず守る

各部の固定・連結がゆるんでいないか確認する
器具が落下して使用される方のけがの原因となります。

- ☐ 甲板全体を強く押し付けて取り付ける
 - ☐ 手すりの固定がゆるい場合は、増し締めする
- ▶ 本施工説明書もしくは手すりの施工説明書参照

4 ラベルの張り付け

はね上げ手すり、フィッティングボード、汚物流しの使いかたラベルを見やすい場所に張り付けてください。

注意

ラベルの張り付けは、確実に行う

張り付けない場合は、確実にお客様にお渡しください。

汚物流し使いかたラベル
※汚物流し部フレーム部
部品セットに同梱

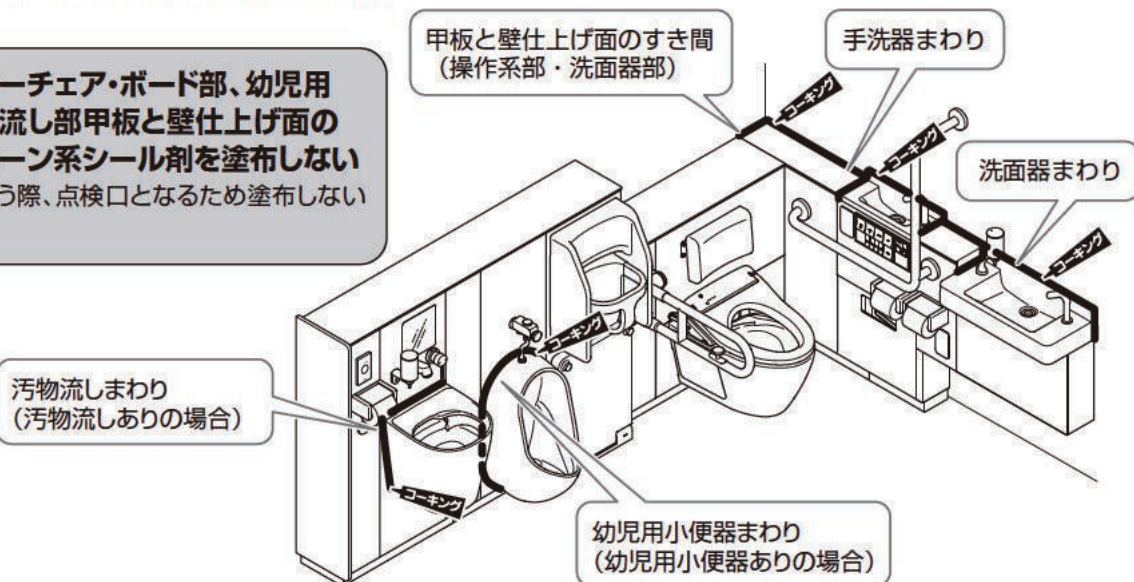


5 シリコン系シール剤の塗布

操作系部甲板・洗面器部と壁仕上り面のすき間や各器具類の周囲はシリコンコーキングで仕上げることをおすすめします。サイドカバーのすき間が気になる場合も、サイドカバーの上面と前方縦面もシリコンコーキングで仕上げることをおすすめします。シリコンコーキングは別途手配してください。

注意

大便器部、ベビーチェア・ボード部、幼児用小便器部、汚物流し部甲板と壁仕上り面のすき間はシリコン系シール剤を塗布しない
メンテナンスを行う際、点検口となるため塗布しないでください。



【お引渡し前に】取扱説明書は必ずお客様にお渡しください。

MEMO

MEMO

